

グローバル化時代に 大学入学者選抜の未来を考える —日本の21世紀ビジョンと 高等教育マスタープランの策定

主催 独立行政法人 大学入試センター 入学者選抜研究機構

共催 文部科学省

協賛 UC Berkeley (University of California, Berkeley Center for Studies in Higher Education、米国)
California Community Colleges (米国)

後援 朝日新聞社

基調講演



Dr. John Douglass
カリフォルニア大学
バークレー校
高等教育研究所上級研究員



Dr. Jack Scott
カリフォルニア州
コミュニティカレッジ
システム総長

指定討論



常盤 豊氏
文部科学省官房審議官
(高等教育担当)



佐藤 禎一氏
国際医療福祉大学
大学院教授、
元文部事務次官、
元ユネスコ日本政府代表部
特命全権大使



鈴木 寛氏
参議院議員、
元文部科学副大臣

2012年11月18日 日
13:00~17:10

有楽町朝日ホール

〒100-0006 東京都千代田区有楽町 2-5-1 有楽町マリオン 11F

定員500名
同時通訳付き
参加費無料

お申込みはこちら

<http://www.dnc.ac.jp/modules/research/content0011.html>

またはFAX

裏面に必要事項をご記入の上、

03-5478-1297

まで送信下さい。

〈申込締切日/11月9日(金) 必着〉

文部科学省の大学改革実行プランや民主党の文部科学部門大学ワーキングチーム報告書が示されたところである。「ビジョンの交代」がダイナミックに展開する予感がする。今回のシンポジウムでとりあげる米国カリフォルニア州高等教育計画（マスタープラン）は、当時のカリフォルニア大学総長クラーク・カーのリーダーシップにより1960年に策定された。マスタープランの眼目はアメリカ大学の大量化であった。当時、日本の大学はまだ「大量化」の直前にあり、戦後の新制大学は格差解消に躍起となっていた。それから50年を経て、日米両国はともに大学の大量化を実現させた。

コミュニティカレッジ、州立大学、そしてフラッグシップ大学（カリフォルニア大学）の三層構造がマスタープランの骨格である。そこには、旧来の大学モデルにはない「格差（種別化）」が意図的に組み込まれ、格差の生み出す競争と移動が「大学の大量化」と「教育・研究の質向上」を推進する原動力になると考えられた。コミュニティカレッジは「入学者選抜を前提としない全入型の高次接続（開放入学制）」であり、入学した学生たちには、大量化時代の学びのインセンティブとして、さらに威信の高い大学へのトランスファー（転学）を可能とするシステムが用意された。

戦後日本はアメリカの高等教育を理念モデルとして、それを追走しながらもマスタープランを策定することはなかった。今日、日本が21世紀高等教育マスタープランを策定するとすれば、その要点は何であるのか。高次接続、大学入学者選抜をキーワードとしながら、ともに考えたい。

13:00～13:10 開会挨拶 大学入試センター理事長 吉本 高志 [司会進行] 田中 義郎（大学入試センター入学者選抜研究機構客員教授）

13:10～16:00 基調講演

13:10～13:25 趣旨説明 荒井克弘 大学入試センター副所長、入学者選抜研究機構長

13:25～14:10 **講演 ①** California Idea and American Higher Education and its 1960 Master Plan
カリフォルニアの高等教育 ―過去50年の総括と未来への展望
Dr. John Douglass
〈ジョン・ダグラス〉
カリフォルニア大学バークレー校
高等教育研究所上級研究員
カリフォルニア大学システムの主任政策分析官等を経て、カリフォルニア大学バークレー校高等教育研究所上級研究員。専門は、公共政策と高等教育。『The California Idea and American Higher Education (Stanford University Press, 2000)』の著者。アムステルダム大学、カンピーナス大学、パリ政治学学院、オックスフォード大学等の客員研究員の経験があり、近年は内外の経済政策に位置づけられる経済発展における高等教育の役割、高等教育の大量化を進める戦略的課題、また、世界レベルの研究大学の学生の経験を評価する国際研究プロジェクトを含む、比較国際高等教育を研究している。

14:10～14:55 **講演 ②** California Idea and American Community Colleges
カリフォルニアのコミュニティカレッジ ―ビジョン、過去、現在、そして未来へ
Dr. Jack Scott
〈ジャック・スコット〉
カリフォルニア州コミュニティカレッジ・システム総長
アビリーン・クリスチャン大学で学士号、イエール大学で修士号（宗教学）、クレアモント大学院大学で博士号（歴史学）を取得。ペーパーダイン大学の講師およびアドミニストレーター、オレンジコースト・カレッジ教育部長、サイプレス・カレッジ学長、パサディナ市立大学学長を経て、1996年から2008年まで、カリフォルニア州議会の上院議員を務めた。上院教育委員会委員長。在任中、146の法案を作成した。2009年1月に第14代カリフォルニア州コミュニティカレッジ・システムの総長に就任。2000年に、クレアモント大学院大学より最優秀同窓生賞を受賞、1991年には、ペーパーダイン大学より名誉博士号を、パサディナ市立大学より名誉学長を初めて授与された。

14:55～15:10 休憩

15:10～15:55 **講演 ③** 我が国の戦後高等教育の総括とマスタープランの可能性
佐藤 禎一 氏
〈さとうていいち〉
国際医療福祉大学大学院教授、元文部事務次官、元ユネスコ日本政府代表部特命全権大使
京都大学法学部卒業。博士（政策研究）。専門分野は大学政策、文化政策。文部事務次官、日本学術振興会理事長、ユネスコ日本政府代表部特命全権大使、東京国立博物館長を経て、現在、国際医療福祉大学大学院教授。ユネスコ国内委員会副会長、科学技術・学術審議会委員、宗教法人審議会委員、文化審議会委員。

15:55～16:40 **講演 ④** 21世紀、日本の高等教育の構想（大学改革ワーキングチームの基本構想）
鈴木 寛 氏
〈すずき・かん〉
参議院議員、元文部科学副大臣
東京大学法学部公法科学科卒。1986年、通商産業省入省。シドニー大学特別研究員、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス環境情報学部助教授等を経て、2001年参議院議員に当選。当選後も東大、阪大、中大、早大等で教鞭をとる。2009年9月、文部科学副大臣に就任し、2010年6月再任。2011年9月野田佳彦内閣の発足に伴い、民主党政策調査会副会長、民主党文部科学部門会議座長。現在、中央大学大学院公共政策研究科客員教授、筑波大学客員教授他、2020東京オリンピック・パラリンピック招致議員連盟事務局長も務める。2012年6月、社会創発塾を発足させ塾長を務める。

16:40～17:05 指定討論

常盤 豊 氏
〈ときわ・ゆたか〉
文部科学省官房審議官（高等教育担当）
1982年文部省入省。鹿児島県教育委員会学校教育課長。文化庁記念物課長。広島県教育長。文部科学省初等中等教育局教育課程課長、初等中等教育企画課長を経て、現職。

17:05～17:10 閉会挨拶／終了

同時通訳付き／参加費無料（定員500名）

参加申込記入欄

※応募者多数の場合は、抽選の上、聴講券の発送をもって発表にかえさせていただきます。

※お送りいただいた個人情報、シンポジウム聴講券の発送や当日の受付、教育関連シンポジウム等の案内を送付させていただく事以外の目的には利用いたしません。

必要事項をご記入の上、**03-5478-1297**までFAX送信下さい。〈申込締切日／11月9日（金）必着〉

住所 〒			
電話番号	e-mail		
氏名（ふりがな）			所属
		役職	
お問い合わせ	（独）大学入試センター入学者選抜研究機構 〒153-8501東京都目黒区駒場2-19-23 電話：03-5478-1322 メール：kikou-seminar@rd.dnc.ac.jp		